



# フィジー通信

No.2  
2018年10月

## 青年海外協力隊2017年度1次隊 栄養士 佐藤綾己（あやみ）



Bula！前号に引き続き、フィジーの文化や生活の様子を紹介します。

### フィジー入門はカバをしてから

カバとは、コショウ科の木のことです。その根を叩いて潰し、水と混ぜて絞り出した汁を複数人で飲むことを「カバの儀式」といいます。見た目は泥水、味は苦さとピリッと辛いのが混ざったような何とも言えない味で、舌が少し痺れる感覚になります。向精神作用がありますが、アルコールは入っていません。お世辞にも美味しいとは言えないのですが、カバを囲んで雰囲気を楽しむのがフィジー流の仲間との楽しい時間の過ごし方なのです。村にお客さんを迎え入れる時、職場に新しい仲間が入った時、家族が大学を卒業した時、地域のお祭りの時などの特別な時はもちろんカバ。更に普段の何も無い日の公園でもカバをしている所に遭遇したことがあります。どうしてここでカバしてるの？と聞いたら、今日は天気がいいからさ！って言ってました。なるほど。美しい円形の「タノア」と呼ばれる入れ物に入ったカバを一人ずつ順番にココナッツの器で飲む。南国のゆっくりとした雰囲気に合った文化ですよ。



カバの根っこを ▶ 木臼で砕いて ▶ 水と混ぜてよく揉んで絞って ▶ 完成！みんなで順番に飲む

### フィジー伝統のアースオーブン「ロボ料理」

ロボってどんな意味？と思ってフィジー語辞書で調べたら「earth oven（大地での加熱調理）」と書いてありました。そうです。ロボ料理とは、地面に穴を掘り、葉っぱで包んだ食材を入れ、熱した石で2時間ほど蒸し焼きにする料理のことです。燻製ほどではありませんが、ほのかに煙の香りがして食材は甘く旨味が閉じ込められているような味がします。時間も手間もかかるため、特別な日にだけつくるこの料理。食材も調理器具も使うのは自然にあるものだけ。フィジーの昔ながらの生活を感じられる一品です。



豚をココナッツの葉っぱで包んで…



まずは熱々に熱した石を穴の底に入れて、その上に食材を乗せる。この時はタロ芋も一緒に蒸されるように上に乗せている。



食材に葉っぱで蓋をした後、その上に再び熱々に熱した石を載せる。



石の上に葉っぱを乗せて蒸していく。大きいバナナの葉っぱが便利！

## 民族衣装は正装にも普段着にも

フィジーの民族衣装を紹介します。男性はブラシャツとスルと呼ばれる巻きスカート、女性はスルチャンバという上下が分かれたツーピースタイプのドレスです。これらは正装ではありますが、価格が手頃なこともあり、普段の通勤やお出掛けの時にも着ている人が多いです。ブラシャツは女性でもスカートやズボンと合わせて着ます。既製品を買えますが、デザインやサイズを自由に調整できるオーダーメイドでの購入が一般的。布を生地屋さんで購入した後、仕立て屋さんを持って行きます。価格は既製品でもオーダーメイドでも大きな差はありません。だいたい、ブラシャツは1,500円、スルチャンバは2,000円くらいで手に入ります。



▲【男性】ブラシャツと巻きスカート



▲【女性】スルチャンバ



▲家族でお揃い

### 大切な一着

フィジー人はカラバタ（お揃いの布で服をつくること）が大好き！家族、職場、友人同士で同じ生地のお揃いの服をつくる機会は多くあります。日本での制服がこれに当たるわけですが、カラバタと一緒に着ることは仲間の気持ちが芽生えて嬉しくなります。というのも、私が初めてフィジーの職場に挨拶に行った日、早速カラバタの話が出ました。「来週、出張に行くからみんなでカラバタ着るの。アヤミは何m必要？」わずか1週間後に着るものなのに、それまで会ったこともなかった私にも生地を準備してくれていて、仕事の早い仕立て屋さんまで紹介してくれました。服をつくるのに必要な生地の長さは体の大きさによるのですが、私は当時よく分かっていなくて「4mかな？」と答えると、同僚たちは「そんなことはない。私が4mだから小さいアヤミは3mで十分だ」「いや、2mでいいだろう」と話し始めました。初めて訪れた職場で緊張していた私ですが、生地の長さについて真剣に議論している同僚たちを見ていたら、そんな緊張は一気に解け、これからフィジーで過ごすことへのワクワクが大きくなったことを覚えています。その時の生地は黒地に金のラメで大きな花の模様が描かれているもの。大切にしていざという時に着ようと思っていたのですが、一回着て洗濯をしたら模様が全部きれいに洗い流されて、ただの真っ黒になってしまいました…。しかし、シンプルになったことで上下を分けて他の服とも合わせやすく、便利に使えるようになりました。

私がこの真っ黒の服を着ている度に、同僚は「これ模様取れてビックリしたよね！わっはっはー！」と笑うし、来客がいれば「私たち素敵なカラバタ選んだのに、洗濯したら模様が取れちゃったのよ。わっはっはー、あーひっひっひー、あ、この子は日本から来たボランティアのアヤミよ。」と、笑い終わってから私のことを初めての人に紹介してくれました。そんな楽しい思い出もあって、たとえ模様が無くなってしまっても真っ黒でシンプルなスルチャンバは私の宝物です。



▲初めての同僚とのお揃い。今はただの真っ黒。

## 助け合いの「ケレケレ」

私事ですが、私は他人に何かをお願いすることがあまり得意ではありません。悪いなあ…と気を遣ってしまうのです。お願いするのって、少し勇気が要ることだと私は思ってしまいます。しかし、そんな私のモジモジを吹き飛ばす言葉がフィジーにはあります。それは「ケレケレ」。持っているものを分け合ったり、できないことを補い合うことはフィジーの「ケレケレ文化」と呼ばれています。お昼ご飯を持ってきていない人がいれば皆で分け合うのはいつものこと。現在は近代化が進み都市部では薄れてきているようですが、人々が関わり合い助け合って生活している様子からは学ぶことが多いです。私も帰国する頃には、立派なケレケレの使い手になっていることでしょう。

### ■同僚からのケレケレ

「パソコンの使い方を教えて。」「電話代が無いからケータイ貸して。」  
「もうすぐティータイムだからお湯沸かして。」「カメラで写真撮って。」

### ■街でのケレケレ

レジに並んでいると「1個だけだから前に入れて。」

### ■私からフィジー人へのケレケレ

「マーケットでこんな野菜見たんだけど、どうやって食べるか教えて！」  
「日本人の友達がフィジーに来るの。一般家庭を紹介したいから家に遊びに行ってもいい？」

## 移動は便利なバスとタクシー

バスは市内ならどこまで行っても1回乗ったら約40円。時刻表はありませんが、いつもだいたいこの時間にバス来るな～という時間があります。人々はその時間に合わせてバスを待ちます。なので、朝は余裕を持って早く出勤するか、焦らずに遅刻してくるかのどちらか。朝にミーティングがあって来ている人がいても、バスが来ないのかもね～と言って、気長に待ちます。遅刻をとがめる人はいません。

フィジーのバスはすべて電子カードでピットして乗ります。1年ほど前から、この電子カードシステムが導入されました。運転手さんの負担軽減と正確な運賃徴収が目的のようです。このカードが無ければ、運賃分の現金を持っていてもバスに乗ることはできません。今日はカードを忘れた！どうしよう！…そんな時はケレケレです。同じバスに乗る人に自分の分と合わせて2回ピットしてもらって、その人に運賃を渡します。



▲窓が無いバスは風が気持ちいい



▲朝の混雑は日本の都会と同じ



▲慣れた手つきでピット



▲毎朝お世話になってます。家のテレビではNHKをよく見ているらしく、日本にも詳しい運転手さん。柿の種をプレゼントしたら喜んでくれました。

タクシーは日本よりも便利で安く、愛用しています。流しのタクシーの数は多く、だいたい10秒も待てばタクシーを捕まえることができます。ほとんどのタクシーがタクシー連盟のようなものに参加していて、概ね安全です。私の家から街中までは約4kmで300円ほどで行くことができます。

家から職場までは約3kmなのですが、バスの場合は乗り換えをして1時間以上かかります。歩くにしても、人通りが多くは安全面に不安があります。そのため、私は毎朝信頼できるタクシー運転手さんに家まで迎えに来てもらっています。タクシーに乗っている時間はたったの5分。短い距離なのに、毎朝早く来てくださる運転手さんには感謝です。

## 私の住んでいる家

青年海外協力隊の多くは、きっと一人暮らしか現地の人の家にホームステイをしているのだと思います。しかしフィジーの場合は少し違って、同じ町でボランティアをしている日本人同士が同居して暮らしています。私の場合は政府官舎を借りてのシェアハウス。慣れない海外での生活や仕事に悩んだ時に、相談して気持ちを共有できる人が近くにいてくれることは心強いです。家のつくりで日本と大きく違う



▲窓には金網と網戸が欠かせない

のは窓です。たいていの家や事務所には、安全対策のための金網が付いています。クーラーが設置されているのは、お店か少しの裕福な家のみ。暑さをしのぐために窓を開けたままでも強盗や性犯罪などを防いで安全に過ごすための工夫です。実際に我が家の窓も、外側から、金網→網戸→ガラス→金網となっています。不審者の侵入を防いでくれていて頼もしいです。

## お気に入りのフィジー語

Vinaka (ビナカ)！毎日何度も使う、私の大好きな言葉です。意味は「ありがとう」他にも、フィジー語辞書を引くとVinakaにはgood, better, wellなどの良い意味の言葉が並んでいます。Vinakaの良い所は、活用することでたくさんの素敵な言葉になるところ。

### ■心をこめて

Vinaka Vakalevu

(ビナカ バカレブ/丁寧なありがとう)

### ■口ボを食べたら

Kana Vinaka

(カナ ビナカ/食べ物おいしい)

### ■暑い日に冷たい水を飲んだら

Gunu Vinaka

(グヌ ビナカ/飲み物おいしい)

### ■夜に星がたくさん見えたら

Rairai Vinaka

(ライライ ビナカ/きれい)

秋田のみなさんも、ノーザンブレッツのフィジー人選手には試合後に「ビナカ！」と声をかけてみてください。

それではまた次号でお会いしましょう。

Moce. Sota tale. (モゼ ソタ タレ/またね)

## 南国の植物観察日記 ～バナナの成長～



バナナの木が実をつけ始めているのを発見！  
まだバナナらしさは無い。



かなりバナナらしくなってきた。  
花びらが一枚めくれるごとに実が付いていくんだなあ。



花びらが全部落ち、実も膨らんできた。色も黄色味を帯びてきて、収穫間近！